

情報処理概論 Q&A (第5章総合練習)

Q 準備の日付の設定で、自動的に更新するという機能があったことは初めて知ったので今後も使っていきたい。

A この機能は p.46 で説明しています。この部分は、事前に上書き保存を行った上で、自由に練習を行っておく所です。そうした部分で積極的に試してみるかどうかで差が付いてくるのでは無いでしょうか。

Q (ヘッダー部分で) 氏名を右側に配置するとき、Tab キーを使つての配置ではなく ホーム 段落 から、右揃えにする方法で配置した。こちらの方法でも問題はないと思う。

A いや、これではダメです。日付と氏名が別の行になっています。この部分は同一行で実現する必要があります。また、これ以外の解答として、日付と氏名の間を空白で空け、この行を右揃えにするというものもありました。これも意味がありません。

Q (ヘッダーの設定において) Tab キーを 2 回押すという方法があると解説に書いてあるときに気付いてヘッダーを開いて確認したら 20 文字の所に中央揃えのタブ設定、40 文字の所に右揃えのタブ設定があり納得した。

A この点は p.56 に説明があり、そこの練習問題で「行ってみよう」としてあります。この方の場合には、その部分の練習問題を行っていなかったようですが、いずれにせよ、解説を読んで納得するよりも、自分が読み飛ばしてしまった部分をしっかり確認しておいてください。

Q (ヘッダー部分について) 保護ビューでは名前が正しく右揃えで表示されていたにもかかわらず、編集画面では名前が 2 行になっており、見直しは必要だと痛感した。

A 名前が 2 行で表示される理由ですが、自己評価では右揃えを行った等の記述が見られますが、そのような設定はされていません。単に日付と名前間に空白を入れているだけです。おそらく、最初にやったときは 7 月の 9 日以前で、今回見たのが 10 日以降であることから、日付の文字数が 1 文字増え、その結果名前がはみ出してしまったものと思われれます。タブを利用してれば、日付の文字数等が少しくらい変化したからといって、このようなことは起きません。そうしたことからタブ等の設定で表示させた方が安全です。で、保護ビューだとちゃんと表示された理由ですが、保護ビューの段階では日付の更新が行われておらず、それでちゃんと表示されていたということです。

Q 自分が手間取ったのは、ルーラーの表示である。場所を覚えていないというのが原因であることは明白だろう。これには、ワードを使う際には毎回ルーラーの表示非表示を行うといった作業を行うことで覚えていくことが手っ取り早いのではと考える。

A ルーラーの表示・非表示の設定は、Word 本体に対する設定なので、自分の PC をお持ちの場合、一度表示 (あるいは非表示) に設定すれば、変更をしない限りそのままです。私の場合、ルーラーは常に表示されるようにしています。

Q 左インシデントマーカー

A この間違いも何人かいました。行の幅を調整する機能は「インシデント」ではなく「インデント」です。

Q 1 ページ目の作業についてだが、タイトル部分が正確に 2 文字目から始まるように左インデントを操作していなかった。課題の説明を見落としていたからこのようになってしまったと思われるが、・・・

A この方の場合、正確に 2 文字目の所に左揃えのタブ設定がなされていますので、タイトルの前にタブ記号を挿入してやれば、2 文字目から表示されるようになります。従って、「操作していなかった」、「見落としていた」ということでは無いと思われれますが、タブとインデントが混乱しているのではないかと思います。この辺は整理しておいてください。なお、文頭部分の配置を変更するには左インデントを用いる方法とタブ設定を行う方法がありますが、機能としては左インデントを使った方が素直な気がします。別にタブを使ったから間違いだ、減点するというものではありません。

Q 1 ページ目のタイトルの部分は左揃えで 2 文字目に来るようにしたが、回答に難しいとあったのでできているかどうか

かはわからない。

A 自己評価を行うときに、自分で行った Word2 の文書ファイルは見えていないのですか。実際に見てみれば、正確に 2 文字目となっているかどうか確認できると思います。ルーラーではわかりにくいのなら段落のダイアログボックスを開けば、明示的に表示されます。

Q (1. の) タイトル部分を 2 文字目にする作業を自分はダイアログボックスの字下げを使用しており、しっかり 2 文字目から始まっていると思うが、解説には載っていなかったため何か不都合があるのだろうか。

A 不都合はありません。解説では段落のダイアログボックスを開いて左インデントを 2 文字としていますが、字下げで 2 文字としても、この場合は全ての段落が 1 行ですから結果は同じになります。ただし、このような使い方をするとときに字下げだと、2 行以上の段落となった場合 2 行目が左側にはみ出すようにすることはあまりないので、自然と左インデントの設定にしたということと、僅かな違いですが、左インデントならば文字数だけの指定、字下げだと字下げの指定と文字数の指定の両方が必要ということで字下げの方には触れていないだけです。間違いというほどのものではありませんが、積極的に推奨するものでもありません。

Q (ルーラーで)「○文字あたり」と指定された点が 0.68 文字目など中途半端なものになっているのが疑問に思いました。

A 確かそうですね。と言うことでちょっといじってみたら、ルーラーの単位が「文字」になっているので中途半端に見えるのですが、ルーラーの単位を mm に替えると、どうやらマウスのクリックで指定される位置は 2.5mm 間隔となっているようです。

Q (1. のタブ設定で) 大体という表現がどの程度なのかわからなかったので項目 1 は Alt キーを押して調節した。

A 通常のマウスによる操作では、ルーラー上のタブ設定は段階的にしか設定できず、逆に、そのような形で設定して構わないという意味で大体という表現にしました。第 5 章最初のタブの練習部分も○文字目辺りという形で練習してもらいましたが、わかりにくかったですでしょうか。しかし、実際にこれらの機能を利用する際には、ちょうどこの位置にしたいという場合と、位置は大体でいいんだけど綺麗に揃えたいという場合のそれぞれがあります。

Q (1. の) 項目 2 を正確に 16 文字目に出来なかった。16 文字目辺りをクリックし、ダイアログボックスから 16 文字目に変更しようとしたが、16.2 文字目がどうしても残ってしまい、うまくできなかった。ルーラーの 16 文字目辺りに 2 つ出てきてしまい、16.2 の方を消そうとしても 16 の方が消えてしまう。失敗だった。

A まず、タブのダイアログボックスにおいて、既に存在するタブ設定の位置を変更することができないことは、p.55 中段の練習問題でやっています。もう一度、読み直してみてください。ですから、最初にルーラーの 16 文字目辺りをクリックするというのをせずに、始めからタブのダイアログボックスを用いればよかったということになります。次に、既にあるタブ設定を削除する手段ですが、16 文字目と 16.2 文字目のように近くにあると、マウスの操作ではうまくいかない場合があります。こちらはタブのダイアログボックスを開き、16.2 文字目のタブ設定を処理の対象とした上で、クリア(E) のボタンをクリックすれば、削除されます。これも同じ練習問題で「上記について各自でいろいろと試してみよう。」に従って、各機能を確認しておけば、できたかもしれません。

Q (1. の) 5 行目の「続く」だけ文字数が少なくタブを追加したのだがこの操作が本来行わなくてもよいのかわからなかった。

A 文字数の多い少ないがあっても、それに続く部分の配置を揃えるのがタブ設定の機能です。タブを加える必要はありません。それでは何故そのようになったかを、この方の文書で見ると、ぶら下げインデントマーカを何の目的かはわかりませんが、9 文字目辺り(「続く」のちょっと右)に設定しています。これが効いてしまってタブを追加せざるを得なくなったのでしょう。意図はともかく、それぞれがどのように効いているかを把握できるようになってください。

Q (1. の設定において) 2 文字目に左揃えタブが、7 文字目に左インデントがきていた。しかし、結果はおそらく変わ

っていないように思われる。

A この方の場合、タイトル部分の開始位置は左インデントの設定によるものではなく（タイトルの前にはタブ記号もありません）、1行目のインデントマーカの設定によるものであり、左揃えのタブ設定は全く効果を発揮していません。一方、項目1の部分はぶら下げインデントマーカが7文字目にあることで、7文字目から始まっています。この後半の方が問題で、確かにこのようにすれば、問題として指示したものと同じ形になりますが、タブ記号直後の文字が、ぶら下げインデントマーカの位置から開始されるのは、箇条書き等の設定を実現するためにそうなっていますが、概念的にすっきりしたものではありません。また、今回は左揃えでしたから良いのですが、それ以外の設定にしたい場合は、ぶら下げインデントマーカでは実現できず、タブ設定を使わなければなりません。そうしたことで、今回は課題で課したものと見た目は変わりませんから減点などはしていませんが、やはりタブ記号の効果を利用する際にはタブ設定を使うというようにしておいた方がよろしいでしょう。そしてまた、たまたま見た目ができているから良い、ではなく、何故そのようになるかをしっかり身に付けておくことが重要かと思えます。

Q 項目1～3のタブ設定を行うときに、タブ記号のダブルクリックでダイアログボックスを開きたかったのだが、反応せず、ホーム→段落→タブとリーダーから設定した。

A この部分の不具合については第5章の進め方を説明する中で触れたのですが、総合練習の解説などの文書では触れていませんでした。ごめんなさい。何がきっかけでこうなるかはわからないのですが、このような状況になってしまうことがあります。ただし、ネットで検索しても、この不具合について触れているものに出会えないのですが。

Q 1ページ目のタブ設定では、リーダーを使用したのが、設定上ではリーダーにチェックが入っているのに、何度設定し直しても紙面に登場してくれなかった。忘れていただけで、何かの操作をすっ飛ばしていたのだろうか。

A 確かにリーダーの設定は行われているのですが、25.65字と26字の両方にタブ設定が行われており、リーダーは26字の方に設定されていますが、項目3の表示に使われているのが（少し前にある関係で）25.65字の方のタブ設定であったことが原因です。一番大きな問題点は複数のタブ設定が行われていることです。P.55の下から4行目の段落で述べているように、不要なタブ設定があると、どれが効いているのが分からなくなり、おかしくなってしまいます。26文字目辺りに複数のタブ設定があることは、ルーラーを見ても明らかですし、リーダー設定のためにダイアログボックスを開いたのですから、25.65字と26字の両方にタブ設定があることが明示的に示されています。何かおかしいことが起こったとき、操作法に目を奪われがちですが、それ以前にどのような状況になっているかの把握がとても重要です。

Q 1ページ目のタブ表示が消えていない。→設定後に消しておく

A タブ記号を表示させるかどうかは、文書に対する設定ではなく、Word本体の設定です。従って、仮に表示しない設定にした後保存しても、私の方のWordで表示する際に、私の方がタブ記号を表示させる設定になっていれば（実際にそうしていますが）タブ記号は表示されます。ということで、課題としてはどちらでも構いませんが、私自身はp.61で説明した方法で、常にタブ記号は表示される設定にしています。タブを使わないときにはどうせ表示されませんし、タブを使うときにはタブ記号が表示された方が良いでしょう。

Q （リーダーの）点線の中にタブの矢印が入ってしまっている。

A これは全く問題ありません。タブの機能を使ったリーダーはこのように表示されます。ただし、印刷時に（リーダーを使っていない時を含めて）タブ記号の矢印は印刷されません。

Q （2.で）「などがある。」の開始位置を左インデントを用いて変更するのはできていたのだが、他の行とマーカの位置が違っていたり、他の行にも左インデントが入っているため、見た目は整っているがやり方に間違っている部分があると思われる。

Q 問題2の最終文「煩わしいと感ずることがある。」について、「がある。」のみを2行目に表示させることができな

った。

A この辺は出題時にも申し上げましたが、自分なりに綺麗に整えることができているならば、問題のとおりになっていなくても構いません。

Q 行頭文字と文字列の開始位置を狭めるときに、Alt キーやマウスの左右ボタンを押したのだが選択されなかった。うまくドラッグが出来なかった。

A 選択されなかったというのはどういう意味でしょうか。ぶら下げインデントマーカをドラッグしようとしても、その部分だけドラッグすることができず、1行目のインデントマーカも一緒に動いてしまうということでしょうか、この辺はかなり微妙で、少し位置を変えようとまくいくことがあります。

Q 段落番号の設定がうまくできなかったため、インターネットと教科書を見ながら作業しました。〈中略〉しかしとも時間がかかってしまった

A 最終的には、インターネットで調べようが^{ブルーブック}青表紙を読もうが、何でも良いのですが、段落番号等の設定の仕方を理解できたかどうかです。しっかり理解できていれば、少し慣れれば作業速度はすぐに速くなります。しっかり理解できましたか？

Q 段落番号を中央揃えにできるとは思ってなくて、第5章総合練習解説を読んで、できると知って段落番号をダブルクリックしてみたところ、範囲指定ができ、中央揃えができました。

A 段落番号の書式については p.60 で説明した後、練習問題で右揃えはやってみるようになってはいるんですが、記憶に残りませんでしたか。それはともかく、確かに段落番号部分をダブルクリックすると、I～IVの段落番号部分が範囲指定されたように見えますが、この状態で ホーム 段落の中央揃えを行っても、中央揃えとなるのは段落番号部分ではなく、その段落全体です。しかも、中央揃えになるのはカーソルのあった（ダブルクリックをした）段落だけです。段落番号を中央揃えにするには 新しい番号書式の定義 のダイアログボックスを開いて、その 配置(M) で中央揃えにする必要があります。この作業を行う際には範囲指定などを行う必要はなく、I～IVの段落番号部分が付いている段落のどこかにカーソルがあれば、それだけでこれらの段落番号全ての配置が中央揃えになります。

Q 段落番号を中央揃えに刷る際に自分は1ずつ設定していたが、解説にあるようにCtrlキーを押して揃えた方が早く簡単にできたらと思う。

A 速さや簡単さもありますが、設定を同じにしたい（揃えたい）という場合には、範囲指定を行ってやらないと、うまくいかない場合やとんでもなく面倒な場合があります。例えば今回のような文書を作成する際にI～IVの段落を並べておき、範囲指定の上でいっぺんに設定したり、あるいは（これは範囲指定ではありませんが）Iの段落について様々な設定を行った上で、文末でEnterを押して段落を改め（このようにすれば同じ設定の段落が作られる）II以降を作成する。そのようにしてからIとIIの段落の間に、別の設定の段落を作成する（挿入する）などということを行うこともあります。

Q 今まで何気なくプリントされた表を見ていたが、実際自分で表作成してみて、綺麗な表を作るのは思いのほか大変であることに気づいた。

A まあ、今回は大変だったかもしれませんが、慣れてくれば、それ程の作業ではありません。

Q （表の）掛け線

A 例年いるんですが、罫線（けいせん）です。

Q （表の）セル結合は、結合のツールを使わずに、罫線の削除で行った。問題があれば、教えて頂きたいです。

A ^{ブルーブック}青表紙 p.66 では罫線削除を行うと、「横の罫線の場合はセル結合となり、縦の罫線の場合は単に罫線を消去するだけというわかりにくいことになる」と記しましたが、今確認したら、治った（2016 までと同じになった）みたいですね。やっぱりバージョンアップ時のミスだったのでしょうか。これならば問題無いと思います。

Q 「罫線なし」というペンのスタイルが私には見つけられなかった。

A アレ？表中にカーソルを移動させたときに表示される **デザイン** のリボン、**罫り枠** のところにある ペンのスタイルというボックス (p.64 最下行参照) をクリックして表示されるメニュー最上段に 罫線なし というのがあると思いますが、見つけられませんか。もう一度確認してみてください (青表紙 ^{ブルーブック} の p.64 下から 2 行あたりも参照)。

Q (表の罫線部分について) 罫線なしでも Word 上では線が残っていたが、配布された先生の見本は pdf であったので、私の作ったものも pdf にした。するとちゃんと線が消えていた。

A 罫線なしにしたときの状況については、p.65 の中段で「罫線なし 指定し、罫線を引くと、罫線が点線となる。この点線は、そこでセルが区切られていることを示すもので、印刷時にこの点線は印刷されない。」と説明しておきました。

Q 解説にある A 列と D 列の間の罫線を罫線なしとしてなぞるのではなく、ペンの色を白としてなぞった。

A このようにした人も結構いました。紙の色が白以外の場合は問題だと自己評価していますが (これはこうした評価でいいと思います)、実際には通常のプリンタでは白い紙に印刷することを想定しており、白色で印刷することはできません。つまり、赤い紙に印刷しても、白の部分は白く印刷するのではなく、実際には何も印刷しないということです。ですから、この方法が間違いということにはなりません。まあ、罫線なしの方が素直でしょうが。

Q (3. の 4 行目は) 別解にある方法を行っていました。Tab をうまく活用して 1 と 4 などの間隔をとることができました。

A この方の場合にはタブ記号をいくつも入力して実現しています。今回は、タブを使うのならば必ずタブ設定を行うように指示しました。講義でも説明したように半世紀以上昔から使われているタブの使い方ではなく、柔軟に様々な設定ができるタブ設定の機能を是非覚えてください。

Q (表中にタブを入力するには) Ctrl と同時に入力する必要があることを覚えていなかった。

A 私も、この方法は結構忘れてしまうことがありました。そこで、別の方法として、どこか表以外の場所にタブを入力し (この場合は単に Tab で入力できる)、それを切り取り、あるいはコピーで表中に貼り付けるという方法があります (p.64 でも述べています)。操作法等を忘れてしまうことは結構あり、その際にこのような逃げ道を知っていると便利です。

Q (表の 4 行目において、別解で行った場合) 1. 等の後ろに空白ではなくタブを入れて間隔を調整する方法を採った。空白ではなくタブにしたことで、もし細かい設定で不具合が生まれるような場合があるなら教えていただけたらうれしい。

A いえ、特に不具合は起こらないと思います。私も、綺麗さをかなり追求する場合にはタブで調整するようにしますが、まあ、今回はそこまでやらなくても良いかということで空白で済ませただけです。ということで、手間はかかりますが、タブの方がより良いということになります。

Q 表に関して、4 行目の種別の項目で、自分が編集していた時と、提出した際の体裁が異なっていた。自分で行っていた時には例の通りになっていたのに、出来上がりは全く異なったものだった。表面上取り繕っても、しっかり手順を踏まないとだめだということが分かった。

A 何か原因がなければ体裁が大幅に変わってしまうことはありません。提出されたものは確かに並び方がガタガタになっているのですが、その原因は (おそらく表全体を中央揃えにしようとしたが、範囲指定が表内部だけだったため) 種別のセルに対して中央揃えの設定がなされたからです。もちろん、どうしても分からなかったというのならば仕方ありませんが、おかしくなった原因をしっかりと調べるのが重要です。

Q 自分はパソコン初心者で、例年ならやっている初心者向けの講義のようなものも受けたかったとは思っています。

A 講習会としてはやりませんでした。その講習会でやっている内容そのものを動画として Youtube にアップし、見られるようにしましたが、ご覧になりませんでしたか。